

# 平成21年度の総合水産試験場の取り組みについて

長崎県総合水産試験場企画開発推進室

## はじめに

総合水産試験場は、平成9年の供用開始以来、今年で13年目を迎えました。皆様には、当水試の試験研究の推進に多大なご支援とご協力を賜わり、厚くお礼を申し上げます。

当試験場においては、「長崎県水産業振興基本計画（後期5か年計画）」に基づいて実施される各種施策の実現に向け、必要な試験研究及び技術開発を計画的に進めています。

また、「開かれた試験場」として、加工施設などの各種設備・機器を広く開放し、水産業界や県民の要望に即した試験研究や技術指導を行っています。

## 分野別の研究事業件数と事業費

| (研究分野)      | (件数) | (万円)   |
|-------------|------|--------|
| 水産資源・漁業技術   | 6    | 3,271  |
| 栽培漁業        | 4    | 2,826  |
| 種苗生産技術開発    | 4    | 4,093  |
| 沿岸環境保全      | 5    | 1,824  |
| 養殖漁業経営安定    | 2    | 1,198  |
| 水産加工        | 4    | 1,167  |
| その他         | 3    | 2,329  |
| (プロジェクト研究等) |      |        |
| 合計          | 28   | 16,708 |

## 主な事業と新規事業の紹介

(事業費 万円)

### 1 地域型資源管理予測技術開発試験

183

長崎県周辺海域における地域特産種の資源

の適正な利用を目的として、タチウオ、アマダイ等の魚種を対象に漁獲実態や生態等の基礎資料を収集し、資源評価の手法開発に取り組んでいます。

### 2 漁海況情報提供強化事業

469

漁業操業の効率を図る上で必要な情報の提供体制を充実するため、従来の漁海況調査に加え、人工衛星による漁場情報などの新たな情報を取り入れ、精度の高い漁海況予報を作成します。また、隣県等の他機関と連携し、情報の広域化や、携帯サイトへの対応など発信方法の改善による情報入手の利便性向上に取り組めます。

### 3 沿岸性高級魚類栽培技術展開事業

491

本県沿岸に分布する高級魚類（オニオコゼ、クエ等）について、資源の増大と持続的な利用を図るため、放流技術と資源管理手法の開発に取り組んでいます。

### 4 最適放流手法を用いた東シナ海トラフグ資源への添加技術の高度化

1,980

東シナ海トラフグ資源の効果的な増大を図るため、有明海から瀬戸内海にかけて複数の産卵場に健全な最適サイズの種苗を放流し、広域の連携調査によりその効果について解明し、放流数や放流場所の組合せに基づいた添加技術開発に取り組んでいます。

### 5 第2期魚介類種苗量産技術開発研究事業

2,593

種苗量産技術開発センターの大規模飼育施設

を利用して、新たな魚種（アカアマダイ、マガキ(シングルシード式)）の種苗を安定生産・量産化する技術を開発し、県内の種苗生産機関へ技術移転することにより、種苗量産技術の実用化を目指しています。

## 6 温暖化に対応した藻類増養殖技術開発

354

温暖化による藻場や有用海藻への影響を調査し、温暖化に対応した藻場造成技術の開発および有用海藻の増殖技術の改良・開発に取り組んでいます。

## 7 有害赤潮プランクトン等監視調査事業

443

有害赤潮や貝毒の原因プランクトンの出現・増殖特性を把握し、県内全域を対象に得られた情報を発信するとともに、赤潮・貝毒の発生情報交換を迅速に行うことにより漁業被害の未然防止に取り組んでいます。

## 8 養殖魚疾病総合対策事業

744

魚病は養殖経営の存続にかかわる被害をもたらす重要な問題であるため、魚病対策技術の開発を行うとともに魚病診断や情報収集・伝達体制の整備等を行い、技術開発から指導・普及まで一貫した体制の構築に取り組んでいます。

## 9 養殖安定化技術開発試験

453

魚類養殖業の持続的な経営安定を図るため、マハタなど市場価値の高い新魚種の導入に向けた適正な収容密度や給餌方法等の養殖技術開発に取り組んでいます。

## 10 水産加工原料確保のための新原料開発 (新規)

314

水産加工原料の確保と県内に水揚げされるシイラ、サンマ等の低・未利用魚の有効利用のため、長崎県の主要な水産加工品であるねり製品や塩干品についてこれら魚種の加工特性に合わせた製造技術の開発に取り組めます。

## 11 県産冷凍すり身の新たな製法とその利用 法の開発(新規)

900

当試験場が開発した糖類や塩分、リン酸塩の添加を必要としない本県独自の冷凍すり身化技術を基に、魚肉タンパク質の特性が異なる県産の原料魚ごとに適した様々な加工品への利用法の開発に取り組めます。この技術により、カロリーや食塩の摂取を制限されている消費者も含めた新たな販路(病院・給食施設等)の開拓が期待されます。

## 西海区水産研究所及び長崎大学との連携

当試験場に隣接する「独立行政法人水産総合研究センター西海区水産研究所」および「長崎大学環東シナ海海洋環境資源研究センター」と連携して試験研究の進展を促進するため、施設一般公開、意見交換会、各種会議の協賛・後援等に取り組んでいます。今後も、本格的な連携強化を図り、水産技術の開発に取り組んでまいります。

## おわりに

当試験場では、皆様により親しまれる試験場を目指しFAX、ホームページならびに携帯サイトによる情報提供サービスを行っています。

「開かれた試験場」として、水産業に直結した役立つ試験研究を推進してまいりますので、皆様のご意見、ご要望がありましたら、最寄り

の水産業普及指導センターが、直接、当試験場までご連絡いただきますようお願いいたします。  
 (企画開発推進室 上利 貴光)

**漁海況通信** 情報が漁業者の目に触れる機会を増やすために掲示用の通信を市町、漁協に配布しております。

(平成20年度 23回配布)



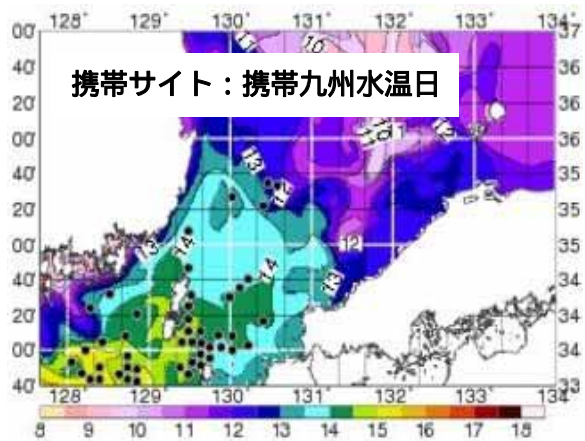
**携帯サイト** 携帯電話のバーコードリーダー機能で下のQRコードを読み込んでいただきますと携帯サイトへジャンプいたします。

QRコード



**ホームページトップページ** <http://www.marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp/>

**携帯サイト** <http://www.marinelabo.nagasaki.nagasaki.jp/mobile/>



**インターネットホームページ** 平成十七年四月にホームページをリニューアルし、内容の充実と分かりやすいものになるよう努めています。主な内容は、施設紹介、研究計画、研究報告、情報サービス、漁海況情報、ニュース、試験研究情報などです。

